

## はじめに

「平成」から「令和」へと年号が変わりました。小学校の教育課程も2年間の移行期間を経て、令和2年度から新学習指導要領が全面実施されます。未来の予測が困難な社会の中でも、様々な変化に積極的に向き合い、持続可能な社会の担い手として活躍するために必要な資質・能力を身に付けた子どもたちを育てていくことは、学校教育における大きな目標であり、喫緊の課題とも言えます。その中であって家庭科は、子どもたちが社会の中で自立的に生きる基礎を培うかけがえのない教科であると言えます。平成29年告示の小学校学習指導要領解説では、「改定の趣旨の具体的な改善事項における教育の見直し」について、

小学校家庭科については、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活と環境」に関する三つの内容で構成する。家族の一員として家庭の仕事に協力するなど、家庭生活を大切にするの心情を育むための学習活動や、家族や地域の異世代の人々と関わるなど、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動、食育を一層推進するための食事の役割や栄養・調理に関する学習活動を充実する。また、消費生活や環境に配慮した生活の仕方に関する内容を充実するとともに、他の内容との関連を図り、実践的な学習活動を一層充実する。さらに、主として衣食住の生活において、日本の生活文化の大切さに気付く学習活動を充実する。

と明記してあります。

各学校では、「できる・分かる・考える」授業づくり、自己の成長を実感し、子どもが伸びる学習評価などについて個々に研究を進め、「子どもが変わる教育の推進」に努めていることと思います。今後は更に、地域の実態やニーズ、児童の実態に合わせたカリキュラム・マネジメントを推進し、指導と評価の一体化を図りながら、より主体的・対話的で・深い学びの実現を目指していく必要があります。そして、そのためには、PDCAサイクルを踏まえた授業実践を繰り返し、研究成果を一つずつ検証していくことが大切です。

さて、今年度も愛媛県教育研究協議会技術・家庭委員会の小学校家庭科実践収録第56号が完成し、皆様にお届けすることができます。本収録には、県下各支部の先生方の創意工夫を凝らしたすばらしい研究実践や県内の家庭科研修会や全国の研究大会の参加報告がまとめられています。今年度の研究主題「豊かな心と実践力を育み、未来を育む家庭科教育」の具現化を目指して、「生活を見つめ、考え、よりよくしようと実践する子どもの育成」のために先生方が積み重ねられた日々の実践は本当にすばらしいです。家庭科教育を通して先生方の熱心な取組や子どもたちの生き生きとした学習活動の様子が伝わってきます。協力していただいた先生方に、心から敬意と感謝を申し上げます。本集録に収められた研究実践の一つ一つが、次年度からの新学習指導要領を踏まえた教育実践につながるものではないかと自負しております。本集録に収められた研究実践から様々な工夫を学び、地域の特色や各学校の実態に応じて更に改善を加えながら、日々の家庭科指導に生かしていただきたいと思います。

最後になりましたが、本集録の作成に当たりご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

令和2年2月

愛媛県教育研究協議会 技術・家庭委員会  
小学校部会委員長 山田 千尋